

## 解答例

問一 傍線部 A に「それが社会のなかで広まることにより生じる問題」とあるが、筆者が述べているフェイクニュースの問題のうち、誤っているものを一つ選択して、記号で答えなさい。

(ア) 真実ではない情報が広まることで、実際の被害が生じる。

(イ) フェイクニュースによって従来の知的権威への依存が強まる。

(ウ) フェイクニュースによって人々が真理への関心を失っていく。

問二 傍線部 B に「民主的な社会における意思決定」とあるが、この意思決定のプロセスと情報の正確さとの関係について、筆者はどのように述べているか。本文に即して説明しなさい。

(民主的な社会における意思決定は、その社会の成員が政治的な問題に対する判断能力を具えているとともに、成員一人一人に判断のための正確な情報が共有されていることを前提としている。そのため情報の正確さは、その社会における意思決定の正統性を支えるものと言える。)

問三 傍線部 C に「嘘をつく人とでたらめを言う人とは、後者のほうがより問題が大きい」とあるが、それはなぜか。本文に即して説明しなさい。

(嘘をつく人は自分の主張に反する証拠を否定したり、反対の証拠を示そうとしたりするので、真実検証ゲームの中で負けることがある。一方、でたらめを言う人は、検証するために証拠を示すというルールを無視するので、証拠によって負けることのない「無敵」の状態になる。こうした態度が蔓延すると真実が規範性を失い、真偽にこだわる人が少なくなるから。)

問四 傍線部Dに「ロスト真実 (Lost-truth) の社会」とあるが、これはどのような社会のことか。「ポスト真実の社会」との違いがわかるように説明しなさい。

(ポスト真実の社会は、客観的な事実の影響力が低下してはいるがゼロではない社会である。一方、ロスト真実の社会は、真偽への無関心が広がった結果、真実の影響力が完全に失われてしまう社会のことである。)

問五 傍線部Eに「論破」とあるが、筆者はなぜこれが問題だと述べているのか。「クリティカルシンキングを行う目的」という言葉を含めて説明しなさい。

(論破を目指す人たちは、相手を言い負かすこと、周囲の人間にそう思わせることだけをクリティカルシンキングを行う目的にしており、真理の探究ではなく、自らの欲求を満たすことや他人からの称賛・承認を得ることに動機づけられている。そのため、形式的にはクリティカルシンキングの手法を用いても、フェイクニュースや陰謀論を促進する側に立ってしまう可能性があるため。)

問六 傍線部Fに「本来の懐疑的精神とは異なる」とあるが、それはどういうことか。本文に即して説明しなさい。

(相手の論の前提や、常識、専門的知見に対して、そもそもそれは正しいのかと、土台の根底から問い直すことや、いったん得た真実の妥当性にも疑いを投げかけるなどして、真理の探究を継続することが本来の懐疑的精神である。そうでないものは、ネット検索をして得た情報をすぐに答えにしてしまったり、自分に都合のよい真実にするために常識や専門的知見にあえて疑いを向けたりするものである。)

問七 傍線部 G に「急ぎすぎないこと」とあるが、この筆者の提案に対してあなたはどうか考えるか。具体例を挙げながら、二〇〇字以内で述べなさい。

(急ぎすぎないことには賛成です。ただし、現実には急かされることが多いので、注意する必要があると考えます。例えば SNS では商品の注文やアンケートへの回答など、期限があるものがほとんどです。こうした場合には、その時の自分の感情を自覚した上で、後悔しない結論を出すことが求められると思います。) 一四四字

(私は筆者の提案に反対である。筆者は、自分が手に入れた情報が本当に正しいのか、時間をかけて吟味すべきだという。しかし、実際には締め切りのあることばかりである。例えば、選挙の投票にも期限がある。結論が出なければ棄権や白票にすることを筆者は勧めるのだろうか。このように、情報が間違っていたり十分に検討できなかったりした場合について、「やり直し」を認めることを提案する。) 一八三字

二 次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 無用のチョウブツ。(長物)
- ② もめごとのチュウサイに入る。(仲裁)
- ③ 混乱した事態をシュウシユウする。(收拾)
- ④ 油断して危機にオチイる。(陥)
- ⑤ 友だちと本をカシカリする。(貸・借)